【土木史研究　第15号　1995年6月　自由投稿論文】

文化遺産としての土木施設の名前に関する研究*
—文化施設の名前の土木遺産としての価値評価—
——ダム名・ダム湖名を中心として——

A study of the names of infrastructures regarded as cultural heritage.

竹林　征三**

By Seizou TAKEBAYASHI

［概要］

文化遺産としての土木施設とは、土木施設そのものと、土木施設の名前とに大きく分類される。文化遺産として考える場合、「建造物の名前」はどのような特性を持ち、評価されるかを「建造物そのもの」との比較において考察を加える。土木史、さらには土木施設がおりなす文化史として考えた場合、「土木施設の名前」が「土木施設そのもの」よりも地域社会に大きなインパクトを与え、歴史的にも意義を持つ例もある。

ここでは、土木施設の命名の由来についてダム名、ダム湖名等について分析し考察を加えた。また、土木施設の命名にあたっては地域計画のデザインコンセプトのもとに、トータルネーミングデザインが重要であることについての言及し、土木史的観点から評価を加えた。

1　文化遺産として見た時の土木施設の名前の特性と価値

（1）文化遺産として見た場合の土木施設の名前の特性

土木施設の名前は文化遺産として見た場合、土木構造物そのものと比較してどのような特長があるかを整理して見ると表－1のようになる。

表－1　土木施設の名前の特性

土木遺産の種類		建造物そのもの	建造物の名前
その存在		大地に根ざした形あるもの（不動）（ハード）	形がない どうにでもなる（ソフト）
人間による認知法		Land Scape（視覚によるもの）	Sound Scape（聴覚によるもの）
時間の経過による変化の様態	当初目的による持続的利用	利用すればするほど摩耗、痛み、老朽 要維持、修繕	利用すればするほどその存在と位置づけが確固たるものになる メンテナンス不要
	時代変化による利用形態の変化	大規模修繕 改築	町名等他のものに利用される、産物や商品名に利用される、等千変万化
	不要になり放棄される	場所を占領しているので、他の利用の障害ともなる 撤去解体	返却 手間不要
	土木遺産として存置保存の場合	・利用者に多少の不便性を強いることとなる。 ・存置保存に多額の経費が必要	名前に付加価値がつき ・シンボル性とローカルアイデンティティが生じる ・命名碑、記念碑等の設置経費少
寿命		物体としての寿命 社会的効用を発揮する寿命 短い	書物や碑等で長い時代にわたり伝承可能 長い

*keyword:土木遺産、ダム名、ダム湖名、デザインコンセプト、ネーミングデザイン

**　正会員、建設省土木研究所　環境部長

（２）文化遺産として見た場合の土木施設の名前の価値

表－２　改名あるいは命名の効果の事例

商　品　名	土木施設	地　名	ダ　ム　名
山陽相互銀行 →トマト銀行 フレッシュライズ →通勤快速 ゴキブイラー →ゴキブリホイホイ	駅名 静岡駅　事務駅 歌登神社	品川、横浜、神戸 「湘南ナンバーで走ろう会」 「湘南ナンバー」を作ろう 赤坂ニュータウン （青山通、三筋通、　）	池の平沼地→白樺湖 赤沼沼地　→女神湖 芦の田沼地→美鈴湖

商品はその改名により表－２に示したもののようにその売り上げが何倍も変わることはよく知られているところである。

地名も商品と同じように大変な資産価値がある。自動車ナンバーには地名がつくが、品川や横浜ナンバーの車はよく売れるという現実がある。福島県大信村の別荘分譲で赤坂ニュータウンと命名し青山通、三筋通、一つ木通りと命名したところ、他の別荘地が売れない時期にかかわらず早期完売したという。地名にははかり知れない資産価値がある。

北海道の今は廃線になった広尾線の「愛国駅」と「幸福駅」は新婚旅行のメッカとなったことは記憶に新しいところである。北海道の歌登神社もその名前から有名な歌手が多くやって来るという。公共施設の名前にも大きな資産価値がある。

同じように土木施設としてのダム名についても蓼科高原にある３つの農業用溜池も白樺湖、女神湖、美鈴湖と改名したところ、リゾート地としての観光地としての一大飛躍をした。

土木施設の名前をどうつけるか非常に重要な課題である。

地域の古い地名には長い歴史を耐えてきた重みがあり土着の匂いと強いアイデンティティがある他、これだけで全国に通ずる資格がある。古い地名を土木施設に命名することは過去の誇りとする地域の歴史を未来へ伝える意義がある。

一方、新しい未来への願望をこめた命名には将来へのイメージを形成する夢がある。歴史を残すネーミングと新しく未来へのメッセージとしての命名の適度のバランスが必要である。

土木施設の命名は将来に向かっての大きな土木遺産なのである。

地図に残る仕事、土木施設が作った多くの地名はこれまでも多くのメッセージを伝へて来たし、たとえ土木施設が寿命でなくなった後も、生きながらえ多くのメッセージを伝へつづけている。形のないソフトな大変な土木遺産である。

２　ダム・ダム湖名の実際

（１）ダム事業の目的によるダム・ダム湖名のちがい

ダム湖などでは名無しであるものがある。人間で名無しということは人格を一切認められていなくても、一切他人の方から気にかけられていないということである。なぜこのような湖名のないダム湖ができるのであろうか。

水道専用ダムは、ダムを築造するのが目的ではなく水を貯える器（貯水池）を作ることが目的である。早い話が、貯水池ではなく水を貯えるタンクでも良いのである。タンクを作るよりも貯水池を作る方が経済的であるから貯水池を築造するのである。貯水池も何もダムを築造しなくても堀り込みでもかまわないのである。すなわち、ダム築造が目的でなく、貯水容量作りが目的である。ダム築造は貯水用容量作りのいくつかの選択肢の一つでしかない。ダムを作ってもそれは貯水池の一部でしかない。したがって、○○貯水池建設事業であって○○ダム建設事業ではないので貯水池名は必ずつけられるが○○ダムの名は必ずしもなくても済むものである。

例えば東京都の重要水源、狭山貯水池は有名であるが、そのダム名である山口ダムはあまり知られていない。また、わが国最古のコンクリートダムとして知られる布引貯水池もそのダム名が五本松ダムであることは地元の神戸市の人でもあまり知られていない。同じ神戸市の重要水源である千苅貯水池に至ってはダム名は聞いたことがない。

農業用ため池についても事情は水道用ダムとほぼ同じである。弘法大師が築造したとして有名な満濃池も堤体そのものの名は特別に名付けられていない。わが国最古のダムとして有名な大阪の河内の狭山池もダム堤体そのものの名は特別に名付けられていなかった。今回、治水ダム制度で嵩上げされるに至って狭山治水ダムと言われるようになったのである。一方、発電用の専用ダムについても同様なことが言える。水力発電所建設が目的であってダムはそのための手段でしかない。すなわち、黒部第四発電所建設事業の一部として黒部ダムを建設したのである。したがって、日本一の堤高を誇る大ダムであっても建設当時は、ダム名は発電所名で代用（黒部第四と混用）していたくらいである。このようにあくまでも主役は水車と発電機よりなる発電所であってダム堤体そのものでないのである。もっと極端なケースとしては水路式発電所などでは発電所の名前はあるが、取水口である取水堰堤には名前が付けられていない場合すらある。

このように、水道専用、かんがい専用、発電専用のダムにあってはダム堤体そのものは脇役の役目で、その名前は極端なことを言えばどうでも良いということであり、したがって、当初は名前がないケースが生じるのである。

ところが、特定多目的ダムが出現してきてから事情が一変してきた多目的ダムにあっては、ダム構造物を建設することが本来の目的そのものなのであり、その結果として多くのユーザーの利用できる貯水空間が出現するのである。○○ダム建設事業であって○○貯水池建設事業ではないのである。まして○○発電所建設事業ではないのである。あくまでもダム堤体が主役なのである。したがって、反対にダム名はあっても貯水池名すなわち湖名がないものができてくるのである。

同じように洪水調節目的の治水ダムは、通常時に容量の空間を確保するために作られたもので、通常時に水を貯水する容量でないので貯水池を造ったという感覚がやや乏しく、やはり目に見えるダム堤体を築造するという感じが強くなるものである。したがって、治水専用においてもダム名はあってもダム湖名がないものができてくるものと思われる。

もちろん、建設事業名も○○治水ダム建設事業ということになるのである。もっと極端な事例として、本来的に貯水を目的とせず土砂堆積を目的とする砂防ダムにあっては水面というものが存在しないので、自らダム名はあってもダム湖名なり貯水池名は存在しないことになる。

どのような目的といきさつで築造されようともダムは人間が築造した最大の土木構造物であり最大のモニュメントである。、また、ダムによって出現したダム湖水は最大のランドマークである。ダムもダム湖も地域の人々にとってはかけがえのない大変な財産であり、子々孫々に伝えるべき宝物である。それらのダムやダム湖に素晴らしい名前を付けることはそれらの価値をより大きくする役割を果たすことになる。

表-3 ダムの目的によってダム・ダム湖名等の命名の比較

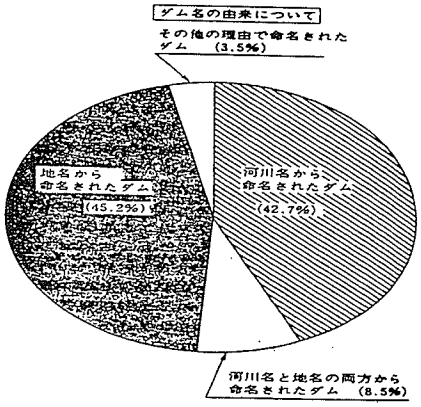
	水道専用ダム	農業(農業)専用ダム	発電専用ダム	治水専用ダム	多目的ダム	砂防ダム
建設事業名	○○貯水池建設事業	○×地区堰堤貯水事業	○×発電所建設事業	○×治水ダム建設事業	○×ダム建設事業	○×砂防堰堤建設事業
主による目的	通常時、水が存在する貯水池	通常時、水が存在する貯池と用水路・排水路	水車と発電機を設置する発電所	通常時、水が存在しない空の容量	通常時、水が存在しない空の容量と水が存在しなければならない貯水容量	土砂の堆積する空間で貯水空間ではない
ダム堤体その物の存在とその役割	貯水池全体の一部分の堰堤、取水施設、排水施設への本部	貯池の全体の一部分を担ける堰、用水路・排水路等、全体と土地改良の一部	水頭をかせぐための手段と取水用施設であり発電所が主役でダムは脇役	そのものズバリ主役	そのものズバリ主役	そのものズバリ主役
湖の存在とその役割	必ず予定されており主役	必ず予定されており主役	発電所が主役であり、湖水も脇役とも脇役	洪水時にのみ出現、通常時湖外容量や不特定容量として結果的に貯水湖が出現	利水にとっては主役。治水にとっては脇役。その複合体	予定されていない。
ダム名	貯水池名で代用される場合がある。	農業用○×貯池等で代用される場合がある。	発電所名で代用される場合がある。	必ず命名されている。	必ず命名されている。	シリーズで開設年に建設されO×一号堰堤、○×二号堰堤等シリーズで命名されることが多い。
貯水池名ダム湖名	○×貯水池、○×水源池等必ずある。	○×農業用貯池	ダム名で代用される場合がある例えば○×ダム湖、○×貯水池あるいはダムを省略して○×湖等と自然的に呼ばれるケースもある。 独から名付けられるケースが増えてきた。	ダム名で代用される場合がある例えば○×ダム湖、○×貯水池あるいはダムを省略して○×湖等と自然的に呼ばれるケースもある。 ない場合が多かったが独から名付けられるケースも出てきた。	ダム名で代用される場合がある例えば○×ダム湖、○×貯水池あるいはダムを省略して○×湖等と自然的に呼ばれるケースもある。 独から名付けられる場合が増えてきた。	本来はないが名付けられているためずらしいケースもたまにある。

（２）ダム名の由来

① ダム名の由来分類

ダムや溜池等のダム擬も含めて、それらしきものはその定義にもよるが、現在、わが国にお いては約２７万カ所あるとされている。それらのダム名の由来をすべて正確に分析し分類することは不可能である。したがって、ここでは筆者が精度をもって調査可能である建設省所管の管理中、建設中あるいは調査中のうち597ダムについての分析してみることとした。したがって、古く築造さ

れた農業用ため池等のダム擬が含まれていない。図－１に示すように河川名から命名されたダム255ダムで42.7%、地名から命名されたダムが270ダム約45.2%、河川名と地名が同一等で両方から命名されたダムが５１ダム約8.5%であり、全ダムの実に96.5%が河川名と地名より命名されていることがわかった。その他の理由いわれで命名されているのはたったの21ダム約3.5%にしかすぎない。古い、ため池等のダム擬を含めればたぶんその他が多くなるのではないかと思われる。



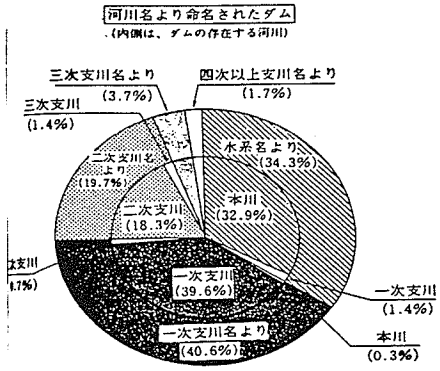
図－１　ダム名の由来についての分類

② 河川名より命名されたダム

河川名より命名されているダムは河川名と地名が同一であるものも含めると全体の51.2%となり、約半数がダムが河川名より命名されていることになる。ダムが造られるところが河川であることを考えれば非常に素直な数字あると思われる。

河川名も海へ流出する河口から本川である水系名そして上流へ行き、本川に流入する支川である一次支川、その一次支川に流入する支川である二次支川、さらに二次支川に流入する支川である三次支川等と順次、高次支川、さらには沢となり名称を変えていくことはよく知られているところである。ダム名はダムが存在する河川名と命名された河川名との関係を分析してみると図－２のようになる。ダムサイトが存在するところの河川名が名付けられているものが約95%と、その大部分を占めている。極く当然のことであるが、例外があることに気付く。例外を拾ってみた。

すなわち、一次支川にありながら本川である水系名が名付けられているのもや、反対に本川でありながら一次支川名が名付けられているものや、地元で呼ばれていなる通称名が名付けられているもの、さらには河川名が長たらしいので短縮して名付けられているもの等多様である。



図－２　河川名より命名されたダムについての分類

③ 地名より名付けられているもの

ダムが河川を堰止めて造られるので河川に存在することから河川名が名付けられる場合が約半分である。ダムが所在するところがその周辺の地名で名付けられている場合が約45.2%と多い。河川名とも同じものを含めると実に約53.7%となる。ダムに名付けられる地名を分析することとする。図－３にその分類を行った。

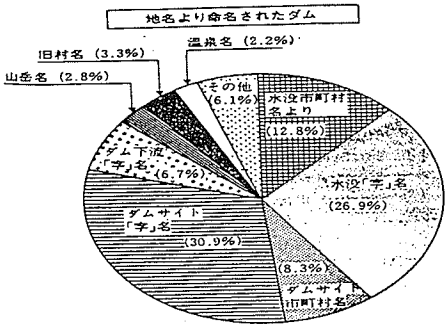
- ダムサイトの地名が39.2%（うち市町村名が8.3%、字名が30.9%）
- 水没地の地名が39.7%（うち市町村名が18%、字名が26.9%）
- ダム直下流の地名（字名）6.7%

ダムサイトか、水没地あるいはダム直下流の地名が名付けられているものが約86%である。

その他約14%は、その地方の現在は使われて

いない旧村名等の地名、それと非常に多いのが付近の山岳名2.8%、温泉名2.2%、峡谷等の名称が1.7%等が目立つところである。

その他、珍しいものとしては高原名、湿原名、峠名、島名、平野名、坂の名さらには水没する旧工作物等の施設の名が取られたものや、特殊ケースであるがダム水没地の上流の字名やダムサイトや水没地とは関係の少ないダム下流地区名等が名付けられている場合がある。



図－3　地名より命名されたダムについての分類

［4］土木施設の命名の最大の機会、ダム建設事業

①　トータルネーミングデザインの必要性

ダム建設はダムという堤体構造物を築造することであるが、その目的はそもそも堤体によって新しく生まれる貯水空間を作ることにある。ダムは人類が築造した最大の構造物の一つであるとともに、そのダムによってできる人工の湖水もおそらく人類が作る最も広いオープンスペースの一つである。その広い貯水空間を作れば、少なくても片側に1ルートの付替道路が自ら必要になる。

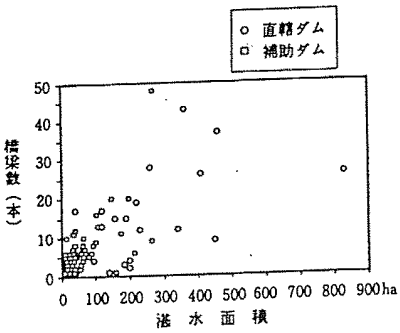
現在工事中の直轄・公団ダム26ダムと都道府県管理の補助ダム70ダム計、約100ダムについて見ると直轄公団ダムでは1ダム平均20橋弱、1ダム最大では60橋の橋梁を架設している。またトンネルも1ダム3つ、多いところでは10程度のトンネルを新設している。

都道府県管理の補助ダムでも1ダム平均6橋、最大では和歌山県の椿山ダムのでは48橋の架設をしている。また、トンネルも1ダム平均で約1つ弱、多いところではやはり和歌山県の椿山ダムでは6つのトンネルを新設した。付替道路に関係する橋梁やトンネルの他、ダム湖周辺の土捨場跡地や原石山跡地あるいは広い高水敷等に公園が1つ程度は最低でも造られている。これだけのまとまった橋梁やトンネルや公園が同時に建設されるのはダム工事の特徴である。

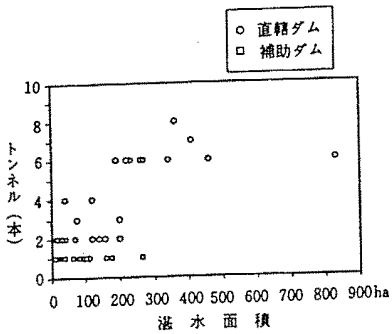
これらの施設の数は一般には湛水面積が広ければ自ら多く必要となる（図－4～6）。

水没戸数や水没農地の大きいダムにあっては水源地域対策対象特別借置法による水源地域整備計画が策定され、22のメニューの事業すなわち土地改良、治山、道路、簡易水道、下水道、義務教育、診療所、宅地造成、公営宅地、林道、造林、共同利用施設、自然公園、公民館等、スポーツレクリエーション施設、保育所等、老人福祉、有線無線放送、消防施設、し尿施設、ごみ処理施設等が作られる。それだけではない、発電が参加している事業にあたっては発電所が新たに建設されるのは当然としても、水源地域対策として、電源三法により、きめ細かい事業が実施され、いろいろな施設が作られる。その他、当該自治体や受益関係者等による過疎法、山振法による各種補助事業や水源地域対策基金等によりさらにきめ細かい施設や対策がダム建設に伴い実施される。これだけのありとあらゆる公共施設がダム工事を核として同時期に建設されるのである。このことはこれだけの多くの多種多様な公共施設に同時に命名する機会が与えられたことになる。これらの施設にどのような名前を付けるかが問題である。当該地域にあっては2度とやってくることのない最大のネーミングのチャンスが到来したことになる。

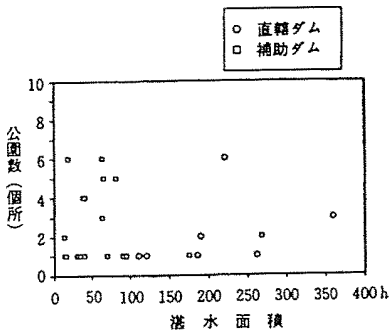
これらのものに一つひとつに素晴らしい将来の夢を託する名前や、また地域の誇りとしている歴史を後世に残すためには名前を付ける。そして、それらの全体にトータルとしてのネーミングコンセプトのもとに付ければそれらのネーミングは何倍もの付加価値が与えられることとなる。一つの大きなトータルとしてのネーミングコンセプトのもとに一つひとつのものに名を付けていくことがトータルネーミングデザインである。一つひとつのネーミングそのもにも資産価値がある。同じコンセプトのもとに名付けられたものが、いくつか重なると相乗効果があり、名前が中を取り持つローカル・アイデンティティが生まれ、地域の発展の夢が大きく花開くこととなる。



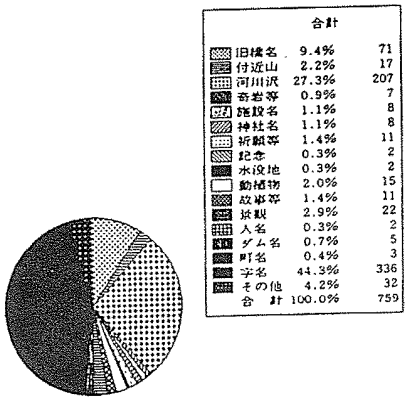
図－4 湛水面積と橋梁数



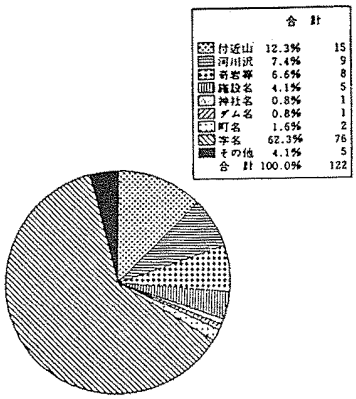
図－5 湛水面積とトンネル数



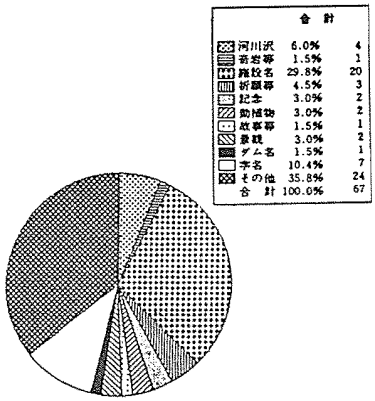
図－6 湛水面積と公園数



図－7 ダム工事にかかわる橋梁名の由来の分類



図－8 ダム工事にかかわるトンネル名の由来の分類



図－9 ダム工事にかかわる公園名の由来の分類

②橋梁名を考える

ダム工事で付替えられた道路に架かる橋梁名は果たしてどのような名前がつけられているのであろうか。前述の約100ダムに架かる訳760橋のネーミングの由来を分析してみると図－7のようになる。

橋梁の設置されている字名や町名が付けられているのが44.7%と最大であり、その次が橋梁が架けられた河川名や沢名が付けられているのが27.3%ということで、この2つの名に因んだ命名のものが72%ということになる。この2つに次ぐものは水没前にあった付替前の橋梁名をそのまま世襲する形で名付けられた、いわば2世の橋となる。旧橋名に因んだ命名が9.4%ということでこの橋名ネーミングのベスト3で実に81.4%強となる。これらのネーミングには命名者の強い意図と思いが余り伝わってこない。

それ以外が案外少ないのが実にさびしい。順に見てみると、付近の景観に因むものが2.9%、付近の名山名に因むものが2.2%、その次がその付近に生息あるいは自生している動植物名が2.0%、ここまでで約9割である。故事来歴等と祈願による命名がそれぞれ1.4%ずつであり、命名者の熱き思いがあれば、これらのネーミングがもっとあってもおかしくない。　これらに続き、付近の神社名に因むものが1.1%、その他の施設名に因むものが1.1%、それ

に付近の奇岩等のシンボルに因むものが0.9%と非常に少ない、本当にさびしい限りである。それにしても人名とかあるものに記念して名付けられたものがそれぞれ0.3%ある。よくぞ名付けられたものである。命名者の決断と熱き思いに拍手を送りたい。

ところでダムの付替道路に架かる橋梁名は都市の河川に架かる橋とどのような相違があるだろうか。

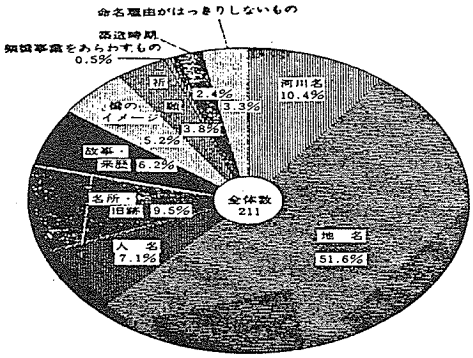
「大阪の橋」の著者である松村博さんに「なには八百八橋」といわれるくらい古来より橋が多くある、水の都、大阪市内の淀川、旧淀川、東横堀川、道頓堀川、神崎川、寝屋川、平野川、大和川などに架かる200強の現存している橋梁について、その命名の由来を分類していただいた。

その結果は図－１０と表－４に示す。

表－４　大阪の橋梁名の由来分類

分類	小分類	件数	合計
河川名	フルネーム	11	22
	通称・愛称	1	
	短縮されたもの	5	
	同名を避けたもの	5	
地名	片方の地名	64	109
	両岸の地名をつけたもの	4	
	両岸の地名から一字ずつとったもの	11	
	古い渡し名	3	
	同名を避けたもの（地名）	14	
	隣接橋名から派生したもの	8	
	橋名が地名になったもの	5	
人名	架設者（商人，藩など）	8	15
	付近の町の開発者名	4	
	僧侶	2	
	人名のようだがはっきりしないもの	1	

分類	小分類	件数	合計
近傍の名所・旧跡など	社寺名	11	20
	城	4	
	方角・街道筋を示すもの	3	
	地場産業	1	
	境界をなすもの	1	
故事来歴	伝説	6	13
	古典の言葉より命名されたもの	2	
	神事	1	
	古い橋の名前を復活	3	
	学校名より	1	
橋のイメージ	架橋地のイメージ	7	11
	橋の形状・形態	4	
祈願を込めたもの	橋の延命	6	8
	安全性を込めたもの	2	
架橋事業を表すもの		1	
築造時期		5	
命名理由がはっきりしないもの		7	



図－１０　大阪の橋の命名の由来

大阪の橋についてその歴史に始まり各種設計論、技術論で徹底的に研究されている氏にとっても古くから存続してきた橋でその命名の由来が今一つ明確でないものも若干あるようだが、相当綿密に調べていただいた。その結果、やはり一番多いのが町名等、地元の地名が名付けられているものが51.6%であり、ダムの付替道路の橋梁の44.7%よりやや多いか、ほぼ同程度と見るのが素直なようである。

しかし、もともと歴史のある土地、橋名が先か、地名が先かについて議論の余地のある物も若干あるとのことである。次に多いのがやはり河川名でダムの付替道路の橋梁の27.3%からすれば大幅に少ない。ダムが築造される山間部に架かる橋であるから、そのところの地形の最大のものがやはり河川や沢ということになるからと考えられる。

しかし、やはりネーミングの最大の差異は大阪の橋はダム湖の橋と比較し、人名、名所、旧跡、故事来歴、橋のイメージ祈願に由来するものが実に31.8%もあり、これらにあたるものはダム湖の橋で非常に少ない。これらのネーミングは一般的にその橋に対し、相当な熱き思いがなければ命名されないと考えられる。ダム湖の橋にも地域の将来の夢をそして、地域の誇りとする歴史をもっと名付けていただければどれだけ素晴らしいことかと思うのだがどうだろうか。

大阪の橋では、もうすでになくなった橋であるに

もかかわらず現在の地名や駅名として人々に親しまれている心斎橋、四つ橋、桜橋、白髪橋、浄正橋、信濃橋、鶴橋、猪飼野橋等がある。素晴らしい橋名はそのものがなくなっても名前は立派に大阪市民の誇れる名として後世に間違いなく伝えられている。

ダム名やダム湖それに、ダム湖に架かる橋梁名やトンネル名もいずれかの日にか、必ずや地域の人々にとって親しみ深い、また、誇りとなる名前となってくれることを信じているものである。

［5］命名について配慮事項

（1）ふさわしい命名は非常に難しい

地域のイメージがどうやって形成されるか。道路とか河川とか鉄道はみな線である。パスである。それから港とかターミナルとか、駅とか交差点というのは線の交点すなわち結節点、ノードである。

お城や近傍の山岳などは地域の多くの人々の心に誇りを共有できるランドマークである。あと面的な地域の端っこは地形の変化点となっている、これは地域のディスクリクト、周辺から地域を隔する節目となるのである。地域のそういうところにダム湖はできていく。それの特徴を上手に捉えて名前を考えればきっと素晴らしいネーミングコンセプトが形成されると思う。どうでも良い名を単に付けることは簡単にできるかもしれない。

しかし、本当にふさわしい名前を付けることは、よほど考えないとできない。よほどよく考えて付けてほしい。ふさわしい名前を付けることは簡単にできるものではない、よく考えてほしい。付けた名前には字そのものが持つ様々な意味も含まれている。

またイメージやムードづくりに役立つ詩的な表現もある。宣伝的な表現の仕方もある。名が備えている意味には、それを付ける人の意図が盛り込まれている。それを多くの人が使うことで、様々な情報が伝わっていく。自分が関係しているダムを地域の人々はなかなか理解してくれない。そうではない。名前を付けたら、名前が自ずから勝手に多くの情報を伝えてくれるのである。

白樺湖というだけで日本中が、あそこは観光地だとわかる。もともとの池の平温水溜地と言っていたら、溜池の名ではだれにもその情報は伝わっていかない。国土地理院監修の日本の地図に新しいダム湖の名前を書いてくれる。

（2）名前は夢を育て、地域を発展させる

夢が託されている名前には、それを使う人の夢を伝達することができる。ネーミングは単にネーミングに終わらない。夢を育てるし、その地域をよくしようというコンセプトを作り出す力がある。

名前には、名前だけで終わらない。名前だけで独り歩きしていく。自分たちがこうなってほしいという名前を付ければ、どんどんそうなっていく。不思議といえば不思議である。

－名前は最小最短のポエム－

名という漢字は何か。夕日の夕と口と書く。夕べにお日さまが沈んでくる、お日さまが沈んだら真っ暗けになる。人と人と区別ができない。口ずさんで相手を互いに確認し合う、これが名前である。名前は「最小最短の歌」である。「詩」である。心である。夕べに口ずさむものにふさわしい「尊厳のメッセージ」を伝えるポエムなのである。

そういうことで土木施設にいかに素晴らしいネーミングを行うかということである。

（3）土木施設命名にあたっての10ケ条

地域の名前を付けるには、いくつかの気をつけなければならないことがある。注意事項を10ケ条に分けてみた。

①他との識別がまず第一
②INPUTされなければ何も始まらない
③サウンドの響きがイメージをつくる
④文字は書いてもらわなくてはならない。読んでもらわなくてはならない。
⑤文字はできるだけイメージの良い、ポジティブなものを
⑥流行にはのるな、名は将来に伝える大切な文化である
⑦国際化時代に恥じない名前を
⑧地域情報をうまく織り込む
⑨いやみのない宣伝それがポイント
⑩ネーミングコンセプトにはこだわりが重要

［6］伝承手段

（1）後世への伝達手段としての石碑の意義

それに命名をするということは、元々かつてその自然がもっていたものに精神という魂を入れ生命を与えることである。さらにそれらを組み合わせて○

○勝○○景という形に指定することは生き返った魂の入った自然にさらに大きな活力・エネルギーを与えることに等しい。自然のある景色に名を命名し、さらにそれらを○○勝○○景として指定すること、存在も価値も認めていない、いわば死んでいた状態の自然風物に生命が与えられさらに活力が与えられ、私ども人間にいろいろのことを問いかけ、語りかけてくるのである。付加価値を与えるという表現よりは新たに価値を創造するという表現の方がより表現として適切なようだ。命名するということは大変に強烈な個性を主張している自然の風物に、人間における人格に当たる風物格を付与し、そして尊重するということである。

それらをまた、何らかの形で石碑に刻し残すということは末永く後世に間違いなく正確に命名の由来とそれへの熱い想いを伝えることである。文章や書物として後世に伝えることと異なり、石に刻して石碑として後世に伝えるのとは、本質的にいろいろな面でその意味するところは異なる。石碑には建立者のそれに対する熱き想いと後世へ伝えたいという強い意図が伝わってくる。（表－5参照）。

表－5　後世への伝達手段としての「書物」と「石碑」

	文章や書物	石碑
文字数	多い。文字数は制限されない。	少ない。自ら文字数は制限される。
内容	いろいろな説や内容が記される。誤った内容や定説になっていないもの等、いろいろな個人的な説が記される。	文字数は少ないだけ、文章は練られ厳選されている。一人の説ではなく社会的にコンセンサスを得られている内容となっている。
制作必要経費	ほとんどいらない。個人で簡単に文章を記すことはできる。	大変な経費が必要となる。多くの人の賛同と協力が必要。
後世への保存	資料として確実に保存されることは実に稀である。火災などで燃えてしまう。	現地のその場所に一番風化されにくい岩石に刻まれる。
イメージの形成	書かれている文章から背景と実物を間接的にイメージアップする。想像力が要求される。	背景および実物を目のあたりに見ながら石碑の文を読む。臨場感がありイメージの形成が容易である。

（2）シンボルの伝承・アイデンティティーの醸成

ダム湖畔は、詩碑や歌碑等の設置場所として最適の地である。ダム湖畔は静かな水面とそれを懐深く抱く峡谷美また、周囲の山塊、さらにそれらの背景をなす山並みはなんともいえない静かな趣があり、湖畔は静かなたたずまいがあり、そこを散策する者に詩作の心を醸し出す雰囲気、ムードがそなわっている。実際に有島生馬氏や佐藤春夫氏らの文人が湖畔で多くの歌を吟じ、それらが歌碑となり湖畔に林立するように建立されている信州の「仙緑湖」や「琅鶴湖」等の人工ダム湖さらに、日本一の「いしぶみの湖」になった「大塩湖」等の事例がある。石碑以上に大変な熱き思いがなければ建立されない、彫刻の設置場所として見た場合、ダム湖畔はどうだうか。石碑等はそこに刻された碑文が読めなければ意味がないので人の目の高さが基本であり、一般的にはその大きさは目の高さより低いかそれともせいぜい大きくても数10%高い程度である。したがって、その視点場は石碑から数mの近くから碑文を読む形となる。したがってその設置場所はダム湖畔というよりは湖畔の散策道路の路傍ということになる。

一方、彫刻類は文章を読むというよりはその姿を眺めるものでその大きさは等身大の場合は等身大の台座の上に設置するようにされる。したがって、彫刻は視点場から一般的に見上げる形となる。視点場から10m程度離れた距離が必要となる。したがって、その設置場所は湖畔でも路傍というよりはむしろ湖畔の大きな広場等となる。銅像等の彫刻類よりはさらに背の高い記念塔はさらに遠くの視点場から見えなければ意味がない。湖に突き出した半島状の先端とか小高い丘の上、等となる。銅像等の彫刻や記念塔は背の高い構築物であり、その空に高く突き出しているところにシンボルとしての趣が加わってくるのである。その意味においてダム湖畔はさらにもっと広い水面をバックにして建てられるのである。より引き立つのである。銅像なり記念塔を設置する場としてはダム湖は広い水面、静かなたたずまい、四季折々の木立ち等これ以上のものはない素晴らしい

立地条件といわねばならない（表－6参照）。

表－6　銅像等彫刻と石碑の効果と比較

	石　碑	銅像等彫刻	記念塔
永続性	風化に耐える硬岩に文字を刻する。	素材(金属, 石材, 木材, FRP, etc)により素材の硬度による寿命は相異する。	同左
情報量とその伝達	刻字を解読して初めて情報が伝えられる。	特定個人の顕彰等、伝えたい内容が明解である。	伝えたい事柄を単純に特化した形である。
イメージの形成（情報の形態）	平面的な文章的情報。文章を読んでイメージを頭の中で形成。	立体的な芸術的情報。立体的なものを視覚でとらえるのでイメージの形成が容易	立体的な建築的情報。特化した事柄をダイレクトに強烈に表現したもの。
一般的な大きさと視点との距離	文字を読むためには至近距離から見なければならない。大きさは人の背たけよりは小さくなる。	銅像等彫刻は基本的に等身大かそれ以上でなければ顕彰したことにはなりにくい。それに等身大の台座がつく。視点場からの距離は10～20m位か？	広い広場等でまわりに突出したものがない所、周辺からの突出度合いでインパクトが決まる。
シンボル性と対象とする人の範囲	ないわけではないが少ない。対象とする人々の範囲は関係者と知識人。	石碑と記念塔の中間。	極めて大きい。対象とする人々の範囲は不特定多数。

すなわち土木遺産の伝承手段としては子々孫々に伝えたい事象やメッセージに係わる彫塑や記念塔等の建立が大きな役割を果たすこととなる。

［7］参考文献

1）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その1）
—ダム名あれこれ－「ダム日本」、No.536、pp.65～79、1989.6

2）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その2）
－人名・年代が名付けられているダム－「ダム日本」、No.537、pp.63～79、1989.7

3）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その3）
－まぎらわしいダム名－「ダム日本」、No.538、pp.51～62、1989.8

4）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その4）
－ダム名の改名について－「ダム日本」、No.539、pp.37～63、1989.9

5）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その5）
－ダム名で連想されること－「ダム日本」、No.561、pp51～61、1991.7

6）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その6）
－地名より名付けられているダム－「ダム日本」、No.562、pp.43～52、1991.8

7）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その7）
－まぎらわしいダム湖名－（ダム名とダム湖名）「ダム日本」、No.563、pp.23～41、1991.9

8）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その8）
－まぎらわしいダム湖名－（人工のダム湖と天然の湖）、「ダム日本」、No.564、pp.55～79、　1991.10

9）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その9）
－ダム湖名のいろいろ－（ダム名とダム湖名同じもの）、「ダム日本」、No.565、pp.23～　41、1991.11

10）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その10）
－ダム湖名のいろいろ－（仮名表示の湖、地名と河川名の同じ湖）、「ダム日本」、No.566、pp.31～43、1991.12

11）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その11）
－ダム湖名のいろいろ－（山岳名、渓谷名）、「ダム日本」、No.567、pp.73～98、1992.1

12）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その12）
－ダム湖名のいろいろ－（名勝名、動物名、植物名）、「ダム日本」、No.568、pp.27～46、1992.2

13）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その13）
－ダム湖名のいろいろ－（故事や竜のつく湖）、「ダム日本」、No.569、pp.31～48、1992.3

14）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その14）
－ダム湖名のいろいろ－（人名や祈願の名）、「ダム日本」、No.570、pp.33～56、1992.4

15）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その15）
－日本のダム王が名付けたダム出張所名－「ダム日本」、No.571、pp.35～38、1992.5

16）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その16）

－ダム湖名のいろいろ－（人名や年代名等）、
「ダム日本」、№572、pp.25～31、1992.6
17）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その17）
－トータルネーミングデザイン－（橋架名、トンネル名）、「ダム日本」、№573、pp.19～31、1992.7
18）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その18）
－ダム・ダム湖名と橋架名－「ダム日本」、№574、pp.29～47、1992.8
19）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その19）
－相模湖八景、東条湖八景、通天湖－「ダム日本」、№575、pp.19～28、1992.9
20）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その20）
－南湖17景16勝－「ダム日本」、№576、pp.19～36、1992.10
21）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その21）
－大塩湖、日本一のいしぶみの湖－、「ダム日本」、№577、pp.51～66、1992.11
22）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その22）－ダム湖の顔づくりネーミング－（名前は最大のシンボル）「ダム日本」、№578、pp.27～40、1992.12
23）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その23）
－ダム湖の顔づくりネーミング－（ネーミングデザイン）「ダム日本」、№579、pp.65～78、1993.1
24）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その24）
－子撫川ダム湖は日本一の彫刻の湖－「ダム日本」、№580、pp.33～52、1993.2
25）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その25）
－ダム築造者と彫刻像－「ダム日本」、№581、pp.43～54、1993.3
26）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その26）
－ダム湖水には「乙女の像」がよく似合う－「ダム日本」、№582、pp.35～46、1993.4
27）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その27）
－ダム築造者と彫刻像－「ダム日本」、№583、pp.27～38、1993.5
28）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その28）
－ダム湖の最大のＰＲの場イベント祭り－「ダム日本」、№584、pp.35～47、1993.6
29）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その29）
－ダム築造者への畏敬と感謝の祭り－「ダム日本」、№585、pp.31～46、1993.7
30）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その30）
－ダム築造と歌と踊り－「ダム日本」、№586、pp.45～65、1993.8
31）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その31）
－ダムと歌謡曲－「ダム日本」、№587、pp.49～62、1993.9
32）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その32）
－ダム築造と歌舞伎－「ダム日本」、№588、pp.35～52、1993.10
33）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その33）
－日本の電力王「福沢桃介」をめぐる塑像群－「ダム日本」、№589、pp.19～29、1993.11
34）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その34）
－日本の電力王「福沢桃介」をめぐる塑像群－「ダム日本」、№590、pp.21～41、1993.12
35）竹林征三：「ダム・ダム湖名称考」（その35）
－日本の電力王「福沢桃介」をめぐる塑像群－「ダム日本」、№591、pp.53～63、1994.1
36）竹林征三：「ダム湖に素晴らしい名前を」「ダム水源地ネット」、№８、1993.8
37）竹林征三「儀式と祭りに見るダム築造、土木のこだわり－儀式と祭り－」「土木学会誌」vol.77、№５、pp.53～56、1992.5
38）竹林征三：「ダムの名勝とイメージアップ」「ダム総括管理技術やだより」、№８、pp.19～48、1992.2
39）竹林征三：「あやめとダムのむらおこし」「長井ダム建設促進進期成同盟会」、pp.１～67、1989.11
40）竹林征三：「ダム擬とダム改名論について」「ダム工事総括管理技術者だより」第３号、pp.３～11、1987.11
41）竹林征三：「ダム擬について」「ダム技術」、№34、1989.11